

7. 機能設定（各種スイッチ）

（1）感度設定スイッチ



感度設定スイッチ

感度設定スイッチで「H(高)・M(中)・L(低)」の切換をおこないます。
通常はM(中)でご使用いただき、状況に応じて切り換えてください。

（2）スイッチA、B

■スイッチA

検知方向	：親器→子器	→	■	○	子器→親器
警報出力接点切換	：a接点(N.O.)	↔	■	○	b接点(N.C.)
方向判別機能	：OFF	↔	■	○	ON
昼夜判別	：夜間のみ動作	↔	■	○	常時動作

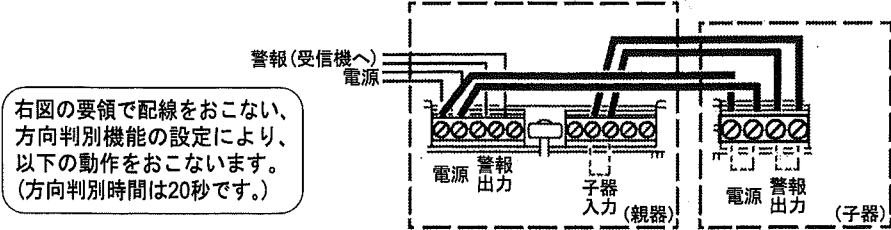
■スイッチB

動作表示灯	：OFF	↔	■	○	ON
パルスカウント	：2回	↔	■	○	4回

検知方向：方向判別機能を使用する際の検知方向を設定します。
警報出力接点切換：警報出力のa接点(N.O.)／b接点(N.C.)の切換をおこないます。
方向判別機能：方向判別機能のON／OFF切換をおこないます。
昼夜判別：「夜間のみ動作」に設定することにより夜間(暗いとき)のみ警報を出力させることができます。
動作表示灯：OFFにすることにより検知時も表示灯を消灯することができます。
パルスカウント：通常は「2回」で使用し、温度変化が激しい場所・外乱要因の多い場所で使用する場合は「4回」に設定してください。

（3）方向判別機能の設定

方向判別機能を使うことにより、方向判別や誤報対策をおこなうことができます。
子器には本製品のほか、無電圧接点(b接点/N.C.)出力のある警備用センサが使用できます。



■方向判別機能を「OFF」にした場合

・どちらかのセンサが検知すれば⇒発報

侵入者A⇒発報
侵入者B⇒発報

■方向判別機能を「ON」にし、検知方向を「子器→親器」にした場合

- ・子器が検知後、親器が検知⇒発報
- ・親器が検知後、子器が検知⇒発報無し
- ・子器のみが検知⇒発報無し
- ・親器のみが検知⇒発報無し

侵入者A⇒発報無し
侵入者B⇒発報無し
侵入者C⇒発報

■方向判別機能を「ON」にし、検知方向を「親器→子器」にした場合

- ・親器が検知後、子器が検知⇒発報
- ・子器が検知後、親器が検知⇒発報無し
- ・子器のみが検知⇒発報無し
- ・親器のみが検知⇒発報無し

侵入者A⇒発報無し
侵入者B⇒発報無し
侵入者C⇒発報

※子器を接続する場合は、親器の子器入力端子のジャンパーを取り外してください。

8. 修理を依頼される前に

修理を依頼される前に、下記内容をご確認ください。それでも正常に作動しない場合は、修理をご依頼ください。なお、ご不明な点は、最終ページに記載の各営業所、もしくはサービス窓口へお問い合わせください。

症 状	異 常 原 因	点 検 と 処 置
警報出力が出て止まらない	子器入力端子にジャンパーがついていますか(子器不使用時)	ジャンパーをつけてください。(5章参照)
動作しない	動作表示灯のスイッチが「OFF」になっていませんか	「ON」にしてください。(7章-(2)参照)
	電源電圧は適性ですか	DC9.5～18Vの範囲にしてください。
検知しにくい	方向判別機能が「ON」になっていませんか	方向判別機能を使わない場合は、「OFF」にしてください。
	正しいエリア調整ができていますか	水平・下向きエリアが同時に検知して初めて発報します。検知距離設定レバーの設定を確認してください。(6章参照)
	感度設定スイッチが「L：低」になっていませんか	設置状況に応じた設定にしてください。(7章-(1)参照)

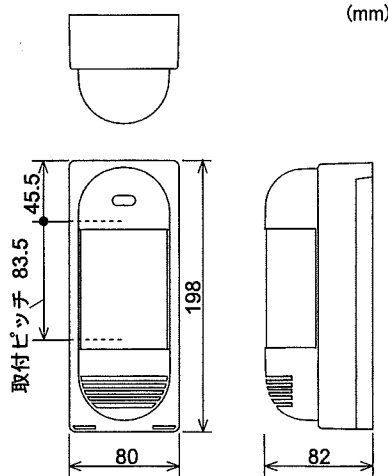
症 状	異 常 原 因	点 検 と 処 置
人がいないのに動作する。	本体を垂直に取りつけられていますか。	正しく取り付けてください。(3、4章参照)
	下向きエリアの設定が長くなっていませんか。	水平・下向きエリアが同時に検知して初めて発報します。検知距離調整レバーの設定を確認してください。(6章-(2)参照)
	下向きエリアが反射物を通して太陽光や自動車のヘッドライトの光等を受けていませんか。	反射物を移動するか、エリア設定の変更をする、または、光を受けているエリアをマスキングしてください。(6章参照)
	太陽光や車の自動車のヘッドライトの直射を受けていませんか。	直射を受けないように設置の変更をしてください。
	エリア内に温度変化を起すものがありますか。(ストーブ、ヒーター、エアコン等)	エリア設定の変更をするか、熱源を移動してください。(6章参照)
	エリア内に動くものがありますか。(カーテン、植物、洗濯物等)	エリア設定を変更するか、動くものを移動してください。(6章参照)

9. 仕様・各部寸法

■仕様

型式	FE12A
検知方式	パッシブインフラレッド方式
検知エリア	12m距離限定水平面警戒：90°
検知ゾーン数	14本
感度切換スイッチ	三段切換（H, M, L）
動作表示灯	発報時点灯（スイッチにより消灯可）
警報保持時間	2±1秒
警報出力	a/b接点(N.O./N.C.)切換 <接点容量：AC/DC28V 0.2A>
タンパー	カバーをはずすと「開」 <接点容量：AC/DC28V 0.1A>
パルスカウント	2回／4回切換
ウォームアップ時間	約30秒：ウォームアップ時動作表示灯点滅
昼夜判別	約10[hx]以下動作
電源電圧	DC9.5～18V
消費電流	N.C. 25mA(待機時)／28mA(最大) N.O. 10mA(待機時)／35mA(最大)
使用温度範囲 (相対湿度)	-20℃～+50℃ (95%以下)
取付場所	屋内・屋外（防沫構造）
取付高さ	0.8～1.2m
質量	0.55kg
付属品	取付ネジ（M4×20 2本）

■外観図



※寸法・仕様および構造などは改善のため予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

注意

- この取扱説明書に記載した警告事項・注意事項に反したお取扱いにより発生した故障や損害などについては、責任を負いかねますので、ご了承願います。
- 本書の内容につきましては、改善のため予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

製 品 保 証 書				
品名	センサユニット	型式	FE12A	製造番号
保証期間	お買上げ日より 1年 対象部品 本体 (ただし消耗部品は除く)			
お買上げ日	年 月 日			
お 客 様	ご 芳 名	様		
	ご 住 所	〒□□□-□□□□		
販 売 店	住所・店名	電話 ()		
		電話 ()		

世界中に「安心・安全・楽々」をお届けする
株式会社 パトライト S5K
PATLITE Corporation

東 京 ■TEL. 03(5541)6711 大 阪 ■TEL. 06(6763)8800
台 ■TEL. 022(256)5656 広 島 ■TEL. 082(297)2277
東 ■TEL. 048(640)2020 福 岡 ■TEL. 092(686)7333
浜 ■TEL. 045(473)1118 北 海 道 ■サテライトオフィス
名 古屋 ■TEL. 052(856)0001

※電話番号などは、変更されることがあります。あらかじめご了承ください。
<http://www.patlite.co.jp>

PATLITE セキュリティショップ チェーン本部
受付時間 9:00～17:00 土/日/祝日と夏期/年末年始の休日は、留守番電話でお受けいたします。
●技術相談窓口 ■ 0120(497)090 ■ FAX. 079(568)6604
※ご注文・価格・商品内容等は、各営業所拠点または代理店にお問い合わせください。

PATLITE

8029-P
Q95100003

PATSENSOR
パトセンサ

取扱説明書

「TYPE：FE12A」

このたびは、**パトライト® パトセンサ**をお買い上げいただきましてありがとうございます。ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。また、本書は大切に保管し、保守・点検や補修などをするときには、必ず本書を読み直してください。なお、ご不明な点は最終ページに記載の各営業所、もしくはサービス窓口へお問い合わせください。

安全上のご注意

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を見誤って誤った使い方をした時に生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

⚠ 警告	この表示の欄は、「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
⚠ 注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

1. 安全のため必ずお守りいただきたいこと

⚠ 警告

- 取付け、配線をおこなう際には、必ず電源を切ってください。感電の原因となります。
- 本製品の使用は、必ず日常点検を実施し、万一の不具合・故障発生時のために、他の機器との併用をおこなってください。
- 工事を伴う設置は、専門業者へ依頼してください。感電・火災・落下などの危険があります。
- お客様による分解や修理は絶対におこなわないでください。火災や機器破損の恐れがあります。

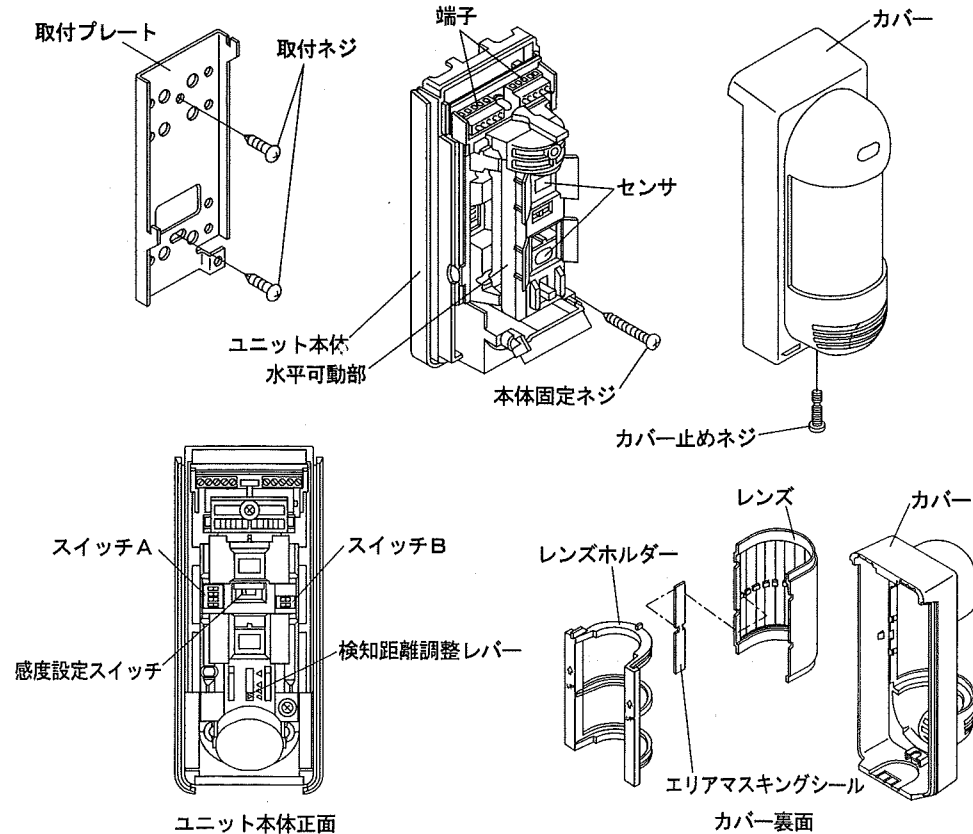
⚠ 注意

- バケツやホース等で水をかけないでください。内部に水が入り機器破損の原因となります。
- 端子部に定格以上の電圧や電流の機器を接続しないでください。火災や機器破損の原因となります。

お断り

- 本製品は防犯警報・注意喚起・各種表示を行うための製品です。盗難防止器等の安全装置やシャッター等の起動用などのご使用は避けてください。万一発生した盗難・事故などによる損害については責任を負いかねますのでご了承ください。

2. 各部の名称



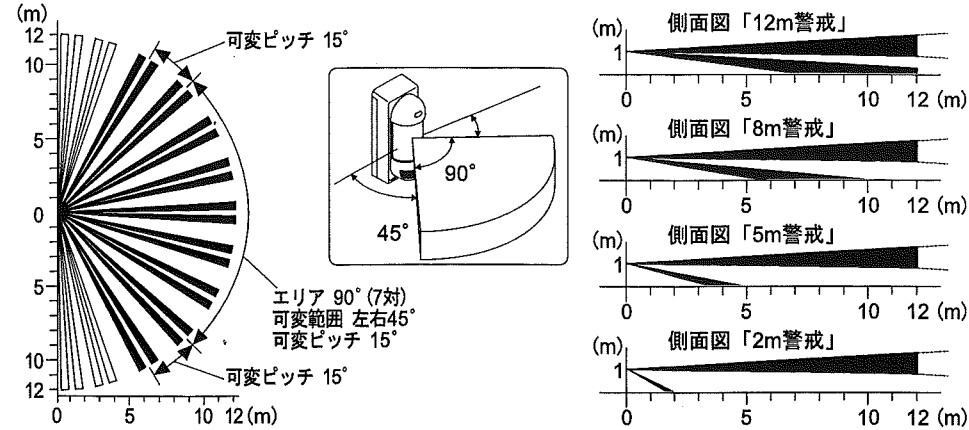
3. 設置上のご注意

- 取付は、振動が少なく、十分強度のある場所へ、垂直に傾きなく取り付けてください。金属フェンスなど、取付けが不完全不安定な場所には設置しないでください。
- 季節の変化により草木が繁り、それが風などでゆれ、検知エリア内に入らないように設置してください。
- 太陽光やその反射光の影響を受けないようにしてください。誤動作の原因となります。
- 蚊や蟻などの虫が本体内部に侵入すると、誤動作や故障の原因となりますので、虫が多く飛来する場所や、虫の通り道となる場所などへの設置は避けてください。
- 検知エリアには方向性があります。検知エリアを横切るように設置してください。
- 設置後は、必ず動作確認をおこなってください。
- 同一箇所でも複数のビーム警戒をする時は、ユニットで他のビームを遮らないように設置してください。

4. 取付方法

■エリア図

取付けの際には、下のエリア図を参考に、警戒範囲を考慮して取付けてください



※ご注意

この製品は、検知エリア内に人が入ったときの温度変化により検知をおこないます。周囲の温度によって検知距離が短くなったり長くなったりすることがあります。温度変化を検知しているため静止している人などは検知しません。また、方向性があるため、センサに近づいてくる人などは検知しにくくなります。

■取付準備

製品下部のカバー止めネジをゆるめ、カバーをはずしてください。そして、ユニット本体下部の本体固定ネジをゆるめ、取付プレートにユニット本体に対して下方向へスライドさせてはってください。

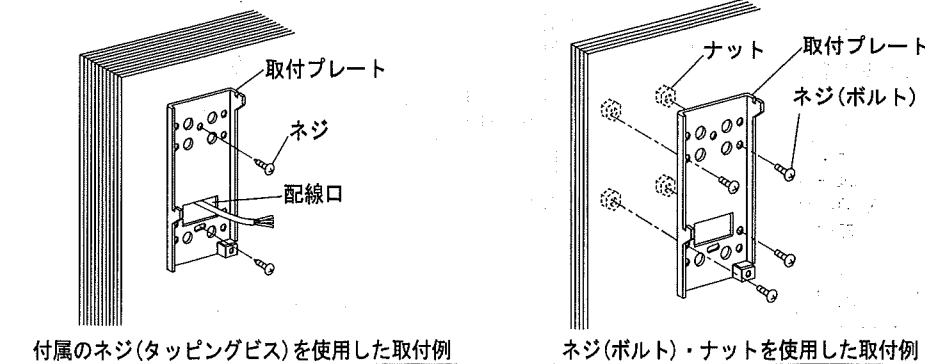
■取付手順

取付プレートを設置箇所に取付け、本体を取付プレートに固定し、最後にカバーを取り付けてください。本体下部には、カバーをネジ止めるドライバーが入る隙間を充分にお取ください。

(1) 取付プレートの取付け

●壁面への取付け① <通常のネジ、ボルト、ナット等を使用できる場合>

付属のネジ(タッピングビス)をご使用いただくか、別途ネジ(ボルト)・ナット等をご用意いただき、取付けをおこなってください。埋め込み配線の場合は、あらかじめ取付プレート中央の配線口より配線を引き出しておいてください。



●壁面への取付け② <コンクリート壁などで、通常のネジ等を使用できない場合>

市販のアンカー(ボルト、ナット)等を使用して取り付けてください。

※アンカー参考品番

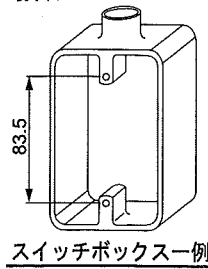
ユニカ(株)製 ボルトプラグ #100型

(ご使用になるアンカーに記載の取付方法に準じて作業をおこなってください。)

●スイッチボックスへの取付け

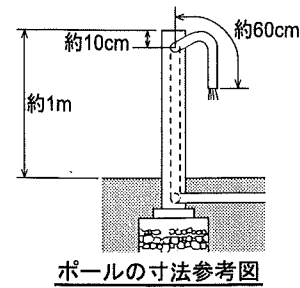
スイッチボックスのネジピッチ(83.5mm)に対応しています。取付けるスイッチボックスにあったネジをご用意いただき、取付けをおこなってください。

※スイッチボックス JIS C 8435-1988, JIS C 8340-1991



●ポールへの取付

- ・ポールへの取付けには、ポール取付用U字金具(別売: PA-1)が必要です。
- ・取付けポールは外径φ42.7mm(JIS G 3452-1997: 32A)のポールを使用してください。
- ・ポールは十分な強度が得られるように設置してください。
- ・ポールからの配線長は60cm程度出してください。
- ・架空配線はできるだけ避けてください。

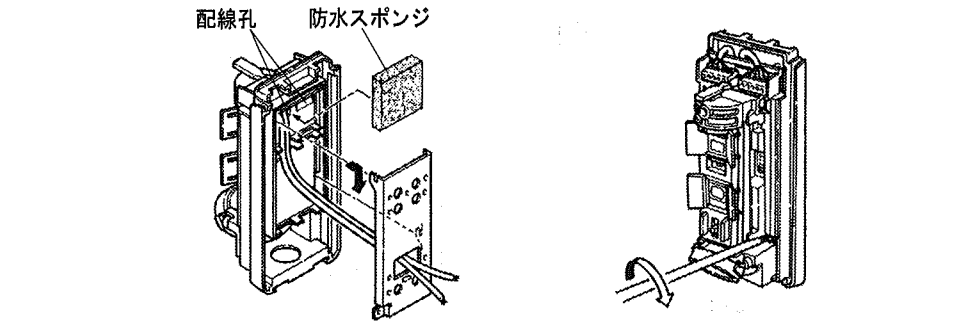


ポールの寸法参考図

1. 取付プレート上部に貼りつけてあるシールのミシン目部分(2箇所)の片方だけをはがして4つの穴を露出させます。
2. 別売のポール取付金具のネジ穴(真中2箇所)へ、ポール外径にあったロックビスを付けた後、M4×6のネジ4本で取付プレートを実際に固定してください。次に、ポールを上端から取付金具の中へ通して、ロックビスを締め付けて完全に固定してください。

(2) 本体の取付け

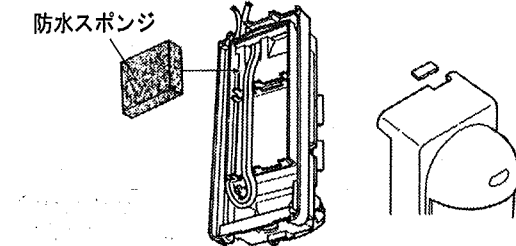
ユニット本体の配線孔より配線を通した後、本体を取付け、本体固定ネジで固定してください。



※露出配線

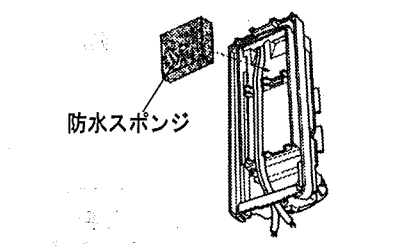
壁面取付けの場合、露出配線を行うことが可能です。

<上方向への配線>



ユニット本体上部配線口(左右2箇所のどちらか)に配線を通し、配線溝を通して配線を一度下の方に通した後、端子への接続をおこなってください。配線後、防水スポンジを貼りつけてください。その後、カバー上部のノックアウトを開け、カバーをかぶせてください。(本体上部配線口の位置に合わせて開けてください。)

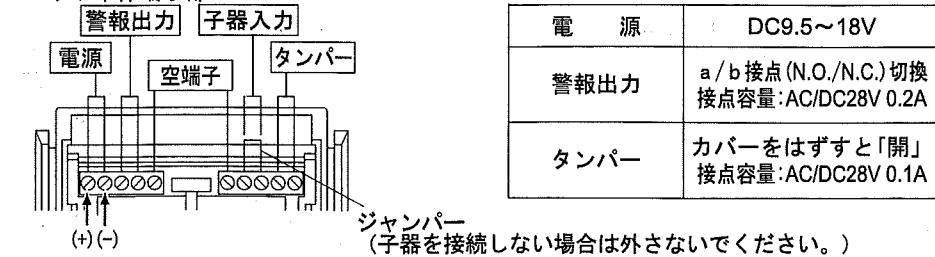
<下方向への配線>



ユニット本体下部配線口に配線を通し、端子への接続をおこなってください。配線後、防水スポンジを貼りつけてください。その後、カバー下部のノックアウトを開け、カバーをかぶせてください。

5. 配線方法

■ユニット本体端子部



●タンパーとは...

本製品には、本体前面のカバーをはずしたときに開状態となる出力(タンパー)を設けています。例えば、警報出力を右のような配線をするにより、センサが検知した時に加え、いたずらなどによりカバーをはずされたときにも警報出力を出すことができます。このとき、警報出力はb接点(N.C.出力)でのみ使用できます。(タンパー端子に結線しない場合は、端子ネジは締め込んでおいてください。)

■配線距離

コントロールボックス(SC2W型)などの受信機からの配線可能距離は右表の通りです。同じ配線に2台以上接続する場合は、右の値を接続数または使用台数で割った距離になります。

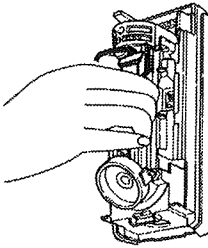
線径	電源電圧	DC12V
0.33mm ² (直径φ0.65)		110m
0.50mm ² (直径φ0.80)		180m
0.64mm ² (直径φ0.90)		220m

6. 設定方法

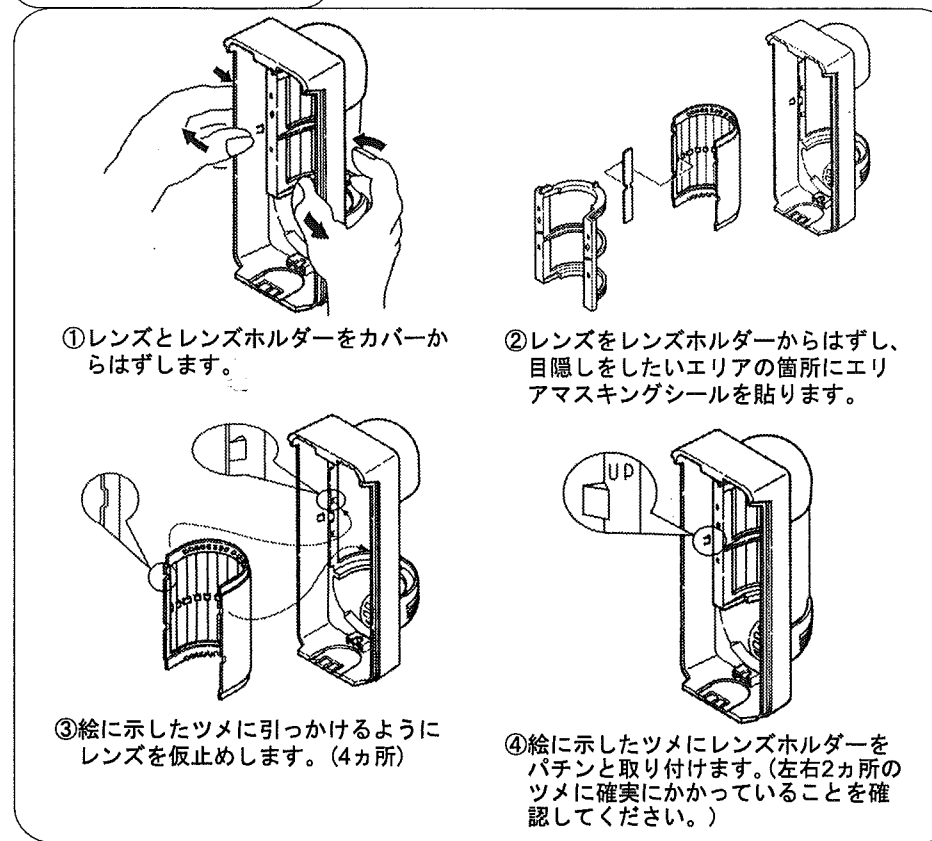
(1) 水平方向の調整

水平可動部を検知エリアを向けたい方向の中心に向けてください。水平可動部を向けた方向を中心に90°(7対)のエリアが構成されます。(「4. 取付方法」のエリア図を参照ください。)

エリア本数を減らしたい場合、付属のエリアマスキングシートを使い、レンズに目隠しをしてください。

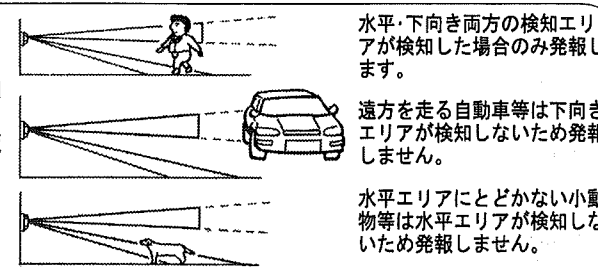


マスキングシールの貼り方

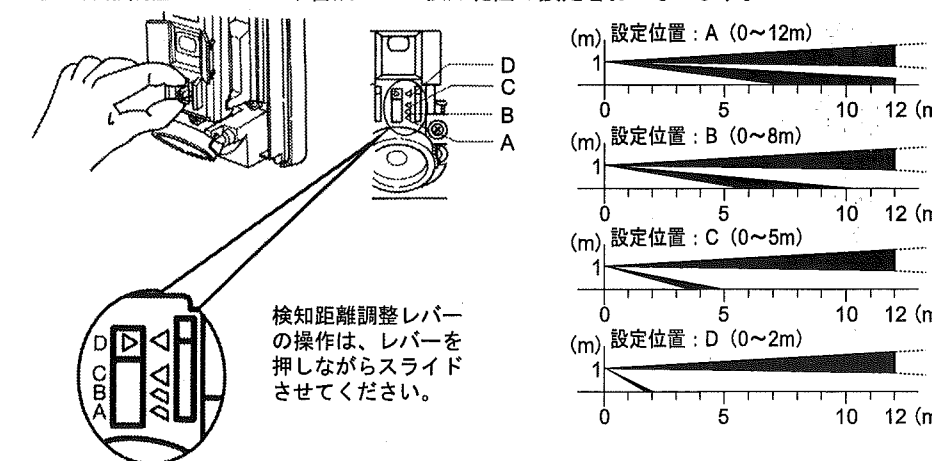


(2) 検知範囲の調整

本製品の検知エリアは、水平・下向きの2段のエリアからなり、両方のエリアで同時に検知したときに発報します。また、下向きエリアの角度を変えることにより検知範囲を限定することができます。



●検知距離調整レバーにより警戒したい検知範囲の設定をおこないます。



検知距離調整レバーの設定により検知範囲が以下ようになります。

設定位置	A	B	C	D
検知範囲	0~12m	0~8m	0~5m	0~2m

<ご注意>

- 必ず0.8~1.2mの高さに取り付けてください。
- 周囲の温度により最長検知距離が変わることがあります。